

令和5年度 学校経営方針

墨田区立錦糸中学校

校長 和田 浩二

I 教育目標

人権尊重の精神を基調として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指して、次の教育目標を掲げる。

○基礎学力を身に付け、自ら考える生徒を育てる。【知】

○情操を豊かにし、他を思いやる生徒を育てる。 【徳】

○心身を鍛え、根気強く成し遂げる生徒を育てる。【体】

II 錦糸中学校が目指すもの

1 目指す生徒像 ～教育目標の具現化～

「未来への夢や希望をもち、こころざし高く、歩み続ける生徒」

- (1) 基礎学力を身に付け、自ら考える生徒
- (2) 情操を豊かにし、他を思いやる生徒
- (3) 心身を鍛え、根気強く成し遂げる生徒

2 目指す学校像

「伝統ある名門校としての誇りと進取の気風に満ちた品格のある学校」

- (1) わかる喜びとできる楽しさを実感できる学校
- (2) 教師と生徒が強い信頼の絆で結ばれ、保護者に信頼される学校
- (3) 地域とともに歩み、地域が誇れる学校

3 目指す教師像

「明るく元気でハートがあって夢を語れる錦糸中の教師」

- (1) 教科指導や直面する教育課題にも対応できる高い専門性のある教師
- (2) 錦糸中学校の教師である誇りと品格をもち、組織的に協働する教師
- (3) 教育公務員として職責を自覚し、サービスの厳正を図ることができる教師

Ⅲ 令和5年度の重点

① G I G A (Global and Innovation Gateway for All) スクール対応

「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」ために

○昨年度に引き続き、AI型教材（ミライシード、Q u b e n a、モノグサ）を活用し、生徒一人一人に個別最適化された問題に取り組みさせることで、基礎・基本の定着を図る。

○生徒一人一人がタブレット端末を“文房具のように使用する”ことを前提とした授業を構築する。

○生徒が、意見等の共有や協働学習を行う道具としてタブレット端末を活用する。
(ロイロノート・スクール、クラスルームやスクールワークの活用)

※今年度はパナソニック教育財団より研究助成（令和5年度）の指定を受けました。

② 学習評価の改善<<継続>>

新学習指導要領では、4観点から3観点到に・・・

○「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」

→ 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」

○意図やねらいを理解し、適正な評価材料を収集するところから、見直し構築する。

○生徒たちにも3観点への意識を持ってほしい。特に、主体的に学習に取り組む態度

③ 学校生活の改善〔生徒会を中心とした活動の見直し〕

○生徒自らが、学校生活を見直し、改善する意欲を大切にする。改善すべきものはきちんとした手続きをとって、変更していく。(校則の見直し等)

○生徒会を中心に、生徒たちの手で学校を創り上げていく気持ちを高め、新しい錦糸中学校を築いていく。

○道徳教育の充実とゲストティーチャーによる授業・講演の充実を図り、社会的に自立できる生徒を育成していく。(学校支援ネットワークの活用)

④ 安心して通える学校づくりの推進

○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育構内委員会を毎週1回開催し、特別な配慮を要する生徒に対するニーズの把握と適切な対応を推進する。

○特別な支援を要する生徒への学習支援を充実させるために(学習指導員の配置、個別指導計画の作成、保護者・関係諸機関との連携)

○SOSの出し方に関する教育を徹底して未然防止を図り、早期発見・早期対応を推進する。（「シャボテンログ」の活用）

○不登校の未然防止や早期対応を目的とした校内SSルームをフルに活用するために、不登校担当教員（加配）と学習支援指導員を配置し、生徒一人一人に応じた支援をさらに充実させ、段階的な教室復帰を目指す。

⑤教育を支える環境づくり

○コロナ禍後の学校教育活動については、コロナ禍以前の姿に戻すのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち、真に必要なものを回復させるとともに、GIGAスクール構想の下で生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れ、新しい学びの在り方へと進化を図っていく。

○家庭や地域の力を生かした教育や学校が取り組んでいる教育活動が見える化するための情報発信の充実を図る。（学校HP、学校だより、学年だより等の充実）

○防災教育の視点を踏まえた教育活動の充実を図る。（地域との連携、消防署と連携した活動）

○部活動のガイドラインに基づき、適正な部活動指導を行う。

○漢字検定・英語検定・数学検定を学校で実施し、学習の意欲向上のきっかけになるよう、取り組ませる。（3級取得を目標に取り組ませる。）

⑥教職員の資質・能力の向上

※パナソニック教育財団研究助成（令和5年度）の研究活動としての学校公開を年2回行い、授業力向上を目指す。

○校内研修を月1回実施する。また、授業を積極的に公開し、研究校としての取組を通じて、教職員の授業力向上を目指す。

○教育公務員としての自覚と使命感を常に意識する。（サービス事故は絶対に起こさない。）

○幼保小中一貫教育の推進。（中学校教師による出前授業の実施、保育実習を通じて、思いやりの心の育成とその実践力を養う）